

収穫感謝祭

楽しかったぞん・・
皆さんに 感謝&感動



四谷の
千枚田だより



第 172 号



師走の十日、本年の収穫を祝い、地元を始め大勢の参加者とともに盛大に感謝祭を催した。会長は、冒頭に「昨年は大きな赤字を抱えた。この催しは参加者の皆さんの協力金で賄われている。保存会は一生懸命棚田保存継承に邁進していただいております、その人から会費を取るなどはおつてのほか、貧乏である。また、【四谷の千枚田】を地域の宝・核として地域活動に参加して頂いている若い衆も一年間のご苦労さん会として大いに楽しんでいただきたい」と挨拶。

会場では【すずはら糯】六臼を黄粉・あんころ餅・大根おろし・柚子味噌等々、一臼ごとに行列が絶えない。また、大はそり二杯のシシ汁も超人気。若い衆が焼く地域料理「鳥長」の皮肝も此処ならではの味付けで大好評。棚田っ娘の五平餅も好評で完売。開催から最後まで会場を盛り上げて頂いた【河西忍とゆかいな仲間】のコンサートの面々には感謝のいたりであった。冒頭の挨拶で「継続は協力金にあり」が好を成したか、約一百万の黒字で来年開催の目途がついた。

減反政策(米あまり対策)

政府の総合農政施策「稲作転換対策」として、昭和四十六年度から昭和五十年年度まで米生産調整(稲作転換)推進事業として各集落の水田の二割が毎年、削減を義務付けられた。四谷の千枚田も転作作物として「しきみ」や「花木」が植栽され、成木になり出荷したものの、過剰生産から利益を得るところか、手数料、返品の憂き目に合い、怒った農民は転作作物を引き抜いたり放棄した。僅かに残った作物は「梅」と「しきみ」程度であり、千枚田の左右や山付きを見れば、その足跡が伺い知れる。

かつては、約千三百枚の棚田も現在四百二十枚が耕作されている実状が解かつてもらえると嬉しい。

忘年会

十一月二十五日、四谷の身平橋下組は環境整備の後、恒例になった忘年会を市内の料理屋でそこそこ派手に行った。

そこで、「忘年」とはどんな意味があるか紐解いてみた。まず、「自分の古いを忘れて没頭するほど面

白く思うこと、年齢の差を気に留めないこと、長幼を論じないこと、その年の苦勞を忘れること」などである。余興としても、「こざねぶり」や「言い争い」は無いにこしたことはないし、なかった。



冬 眠

冬 眠
バカ寒くなったじやんかんま

あく温くなくなるまで、冬ごもり(冬眠)だえん・冬眠にはのん、三つのタイプがあるだぞん、①カエル型はのん、カエルやヘビ・カメみたいな冷血動物で、気温が下がると体温も低くなり動かなくなっちゃって、一回冬眠に入るとのん、気温が一定の高さまでこんと、つついても、ひっぱたいても目を覚まさん。②コウモリ型はシマリスみたいな温血動物でのん、冬眠中は体温も下がり、呼吸数も減るだが、物音や光なんかの刺激でビククリこいて目を覚ますこともあるだぞん。③クマ型は体温も下がらんで、脅しにやあ、すぐ反応せる、ちようど、あんたみたいに、冬中、コタツ寝しとるようなもんだわいのん・・・どおだんちったあ 利口になつたずらあ

獣害対策 個体数の削減

イノシシの拡大は平成十二年、ニホンジカは平成十七年に後山や落合(通称 おちやあ)から南下、「あつ」という間に旧鳳来町一円に拡大、被害甚大である。ニホンジカの食性をみると香の花(しきみ)以外はほとんど食べる。畑に梅や花木を植えて

も皮を剥ぎ、枯死させてしまいう厄介者だ。(捕獲した個体と記念撮影)



冬 耕

冬 耕
旨い米を作る秘訣
すでに、来年の田支度に余念がない棚田の百姓衆



行 平成二十九年十二月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
文 責 小山舜二